



復
讐

月氷奇縁

二

~ 13
3103
2



門 へ 15
3103
2

回

月氷奇縁卷之二目錄

月氷奇縁
第三回

觀音堂靈箭救二相女

滋賀山強弓走阿紫

隔樓絃管運情

停船釣竿叙思

月氷奇縁

卷之二

昭和九年
七月三日
珠末

第二篇

相州 花水橋

靈槎淡得停

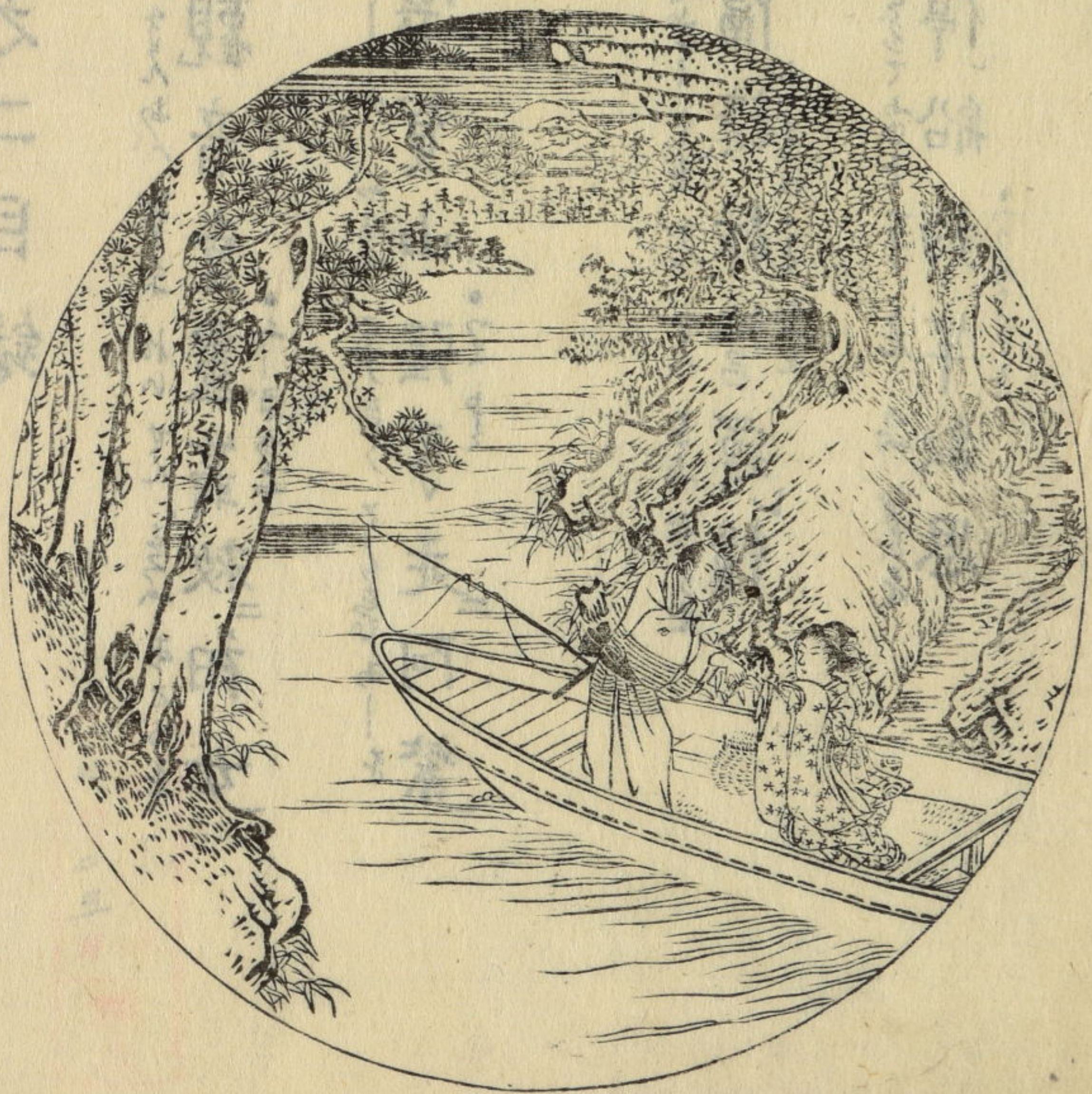
望侯可笑肉

末負釣舟鳥

鵲橋頭風色

好却來織女

御簞魚鉤



氷奇縁卷之二

東都 曲亭馬琴著編

第三回

観音堂 霊箭 救相女
滋賀山 強弓走阿紫

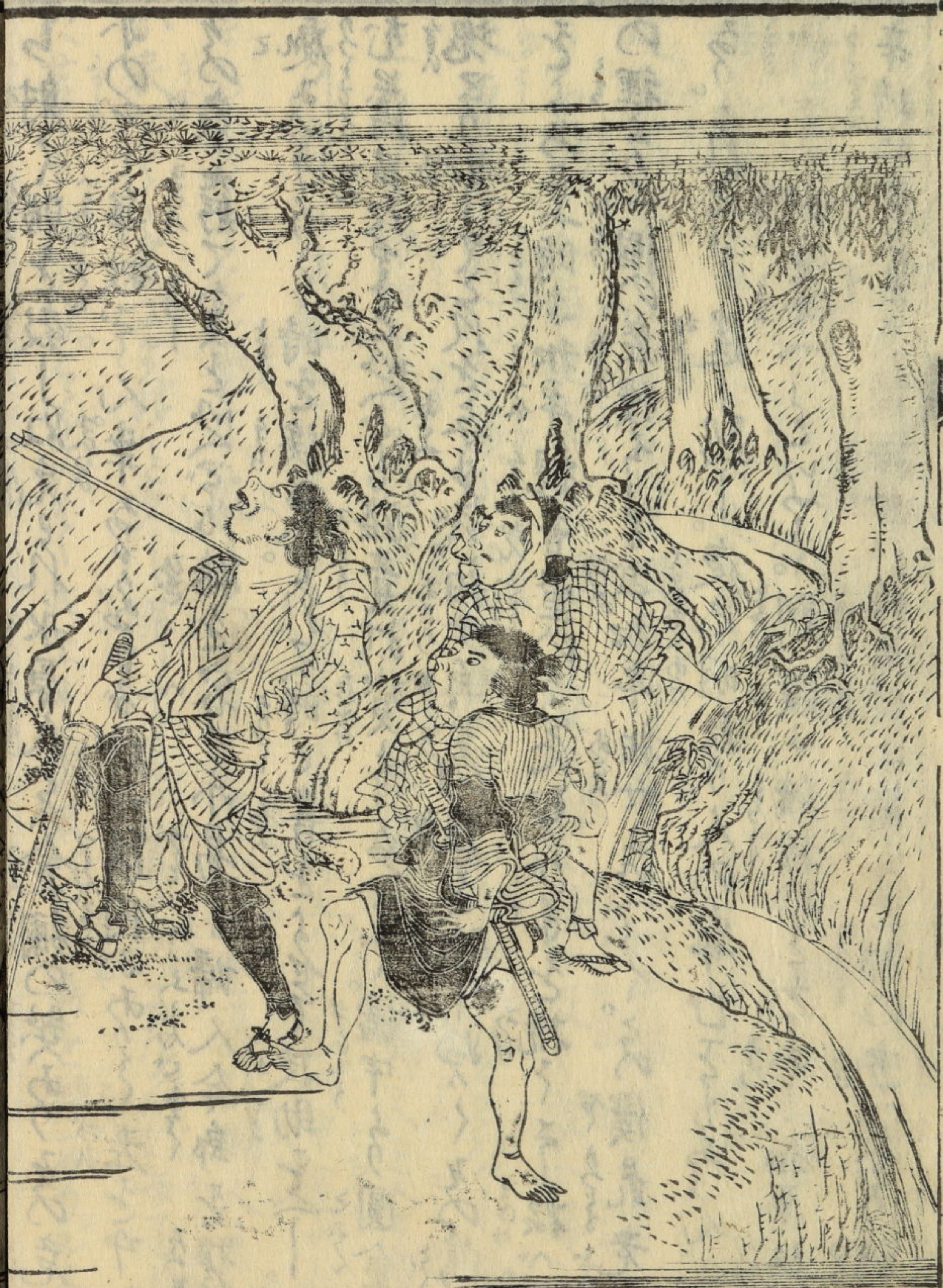
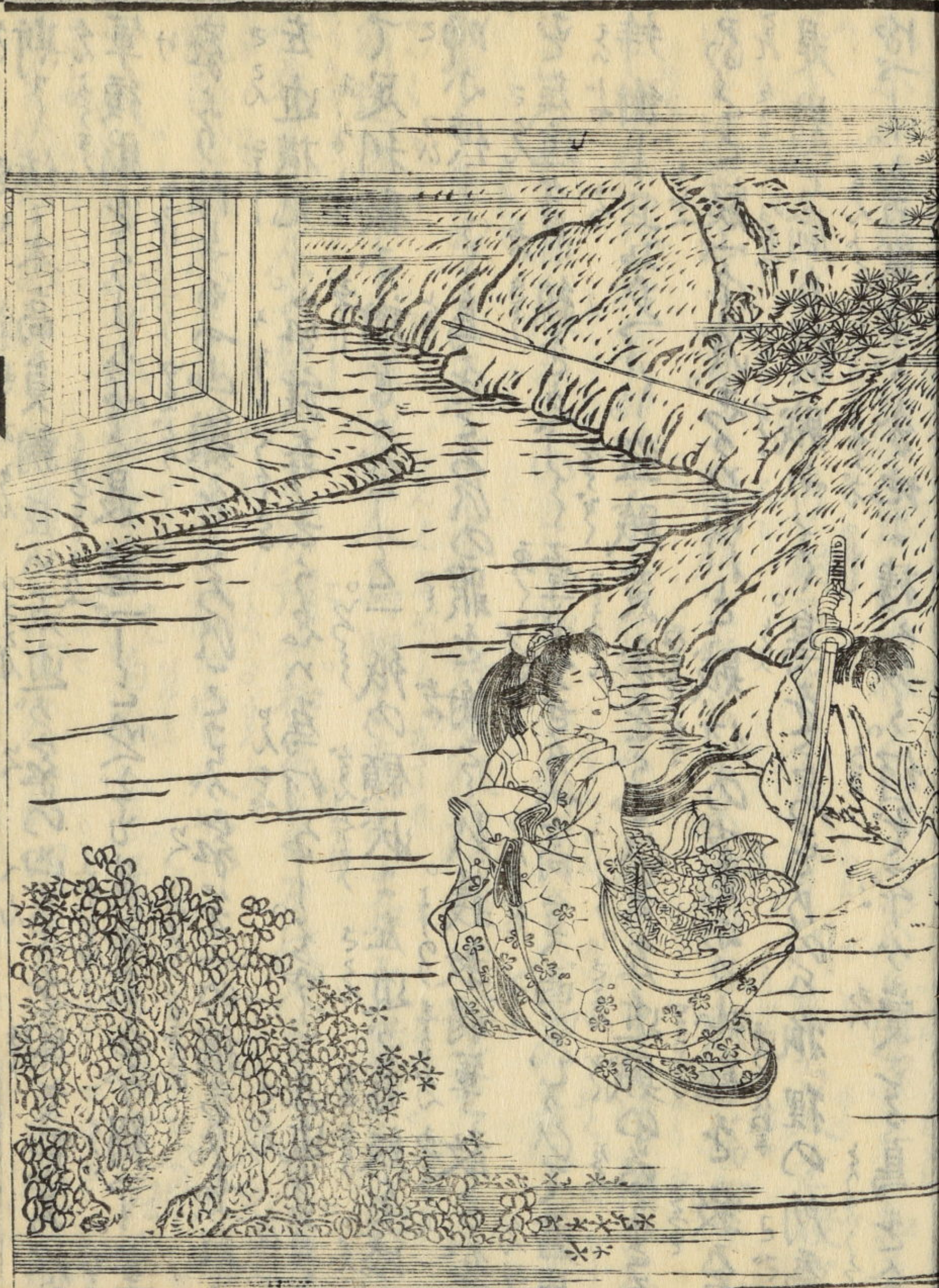
是夕永原左近が第宅の親戚をばねに娶毒せり賀
宴をひらけ酒醺ふ夜深く三更小客退れ家内の奴婢も大に
酔ふ熟睡し主人の横死を志すのあり五更の左側みきり
けえく覺て大おどろけ奉家慌忙と涕がとく継室相女
源五郎を抱き取りて出良人の屍をるも涙と袖のむ貫
あぞ愁傷自足れ措きををるど共小劔を伏て死人を哭る
家吏喜内こををる。このあさほり物不狂あま今この凶事に

の霧は鳴水に松林を抱ききく。山一徑不通く斜なり。
 たどくも白川に巔をみれば東をて夜向明も時しも
 あれ松の蔭蔚より山峯五六人より出吾們頃日賭は輸
 て久く夜寒を凌ぐのあり。死行客ぞ買路強を得ると集
 る。喜内是をこそ大に怒を智れ氣滅たどく頭を喪て
 ちる。さりと罵つ。腰刀を抜て逐てと雲飛雲不飛。これと
 戦立地二人を劈伏たり。あれと寡なり。衆小敵一がく。
 喜内全身小傷をうけ流血眼にりて雙刀志どろまたり。遂に
 賊のあよりをいけ。衆賊走りて。初女は迫人と次。初女
 は足地に流る。源五郎を去ると抱西の坂路を逃る。と五六町。
 賊あが逐る。事既に急なり。時小流傷なる観音堂の徑

小一聲彈たぐく響音箭一り来く。前小を。賊の鳩尾骨小彈と
 き川。賊徒られ。驚妙を首を抱て逃人とさる。小箭は。和條
 を乱れどく飛来く。山賊とく射死さる。初女を。とて
 大士を伏せ。家父熊谷勘解由。世は在。時。く觀世音を信
 む。いぬ。又。父。志。継。常。に。觀。自。在。の。御。名。を。唱。現。當。二
 世。を。祈。なり。が。今。の。危。急。に。時。小。臨。か。る。奇。瑞。を。ん。と。い。は。父
 が。信。心。の。餘。慶。ふ。ら。り。又。い。は。れ。見。の。天。運。以。得。た。る。傳。聞。桓。武。天
 皇。の。延。曆。年。中。坂。上。田。村。將。軍。鈴。鹿。山。小。賊。を。討。の。日。菩。薩。千
 の。智。惠。箭。を。り。邪。術。を。折。ゆ。と。聞。い。昔。着。人。今。奇。哉
 吁。妙。哉。と。亡。語。一。な。が。あ。あ。と。う。り。絆。せ。ん。と。さ。る。小。忽。地。觀。音
 堂。の。門。扉。を。ひ。り。裡。面。より。一。個。れ。氏。夫。烏。巾。は。面。を。包。小。一。張

の引を執腰に三羽の征矢を捕ま。悠悠とくまをせり。相女これ
 をえり。大小井とる。面を背て逃んとまをを。彼人引成り。遼
 婦人の中。とめ。小人の永原氏の親友なり。と巾を脱。三上。和
 之。相女。ふ。ひ。月。と。死。惘然。て。言。和。平。路。傍。の。石。腰
 うら。歌。人。前。夜。友。人。を。訪。て。暮。残。團。暁。不。及。家。不。帰。ん。と
 永原氏の前門を過。家内事あり。と。お。が。ま。く。い。と。さ。が。怪
 之。う。り。て。縁。故。を。聞。た。の。殃。あ。と。を。ま。り。因。婦。人。と。令。郎。を
 た。外。ぬ。お。後。難。を。お。れ。逃。奔。せ。り。と。お。小。人。を。れ。中。途。お。や
 ち。あ。ん。と。と。察。家。ま。う。と。う。直。小。迹。を。慕。ひ。婦。人。より。先
 小。来。り。愛。ま。は。れ。と。久。果。て。か。け。所。な。ら。ば。母。子。小。客
 に。若。く。み。か。え。る。と。を。り。大。士。は。募。供。け。弓。箭。を。精。なり。ま。い

ち射。賊。を。殺。し。ぬ。え。れ。永。原。氏。と。金。禰。の。契。あり。その。危。難
 小。の。ぞ。幸。救。ぞ。ん。幸。あ。る。う。か。姪。母。隣。国。小。あり。老。を。中。ま
 の。家。窮。て。貧。と。い。も。膝。を。容。る。小。易。婦。人。令。郎。を。推。彼
 處。よ。り。時。を。俟。た。れ。又。時。に。書。を。よ。せ。て。技。助。と。い。は。し
 尤。薄。品。た。ま。と。い。も。路。費。に。資。と。い。も。懐。中。より。圓。金。數
 塊。より。出。して。これ。を。与。ふ。相。女。再。望。の。恩。を。謝。し。ゆ。く。その。篤。惠
 を。よ。る。ふ。時。小。和。平。觀。音。堂。の。う。た。ひ。を。抗。く。と。松。平。堂
 の。裡。より。一。個。の。老。僕。を。出。出。和。平。相。女。と。い。は。し。く。の。僕。最。老。實
 あり。これ。を。送。り。む。夜。已。明。たり。人。の。お。り。と。も。あ。ん。と。れ
 所。より。袂。を。か。ぐ。と。い。つ。則。僕。は。路。程。の。と。を。示。し。和。平。終。小
 幸。崎。の。方。に。去。た。れ。相。女。に。彼。老。僕。小。助。と。い。は。し。都。の。方。へ。た。り。終。ぬ。



死を免る小樹を。元来吾屬山雞小仇を。その足下も。あつめ。頼ハ一片れ慈愛とた。て。吾屬を救ふ。あつめ。報を。んと。和平を。聞くと。汝ハ已。其。突を。其。遠。国。白狐云。吾眷屬二千五百あり。車急。て。と。て。狗。和平又。是。君命あり。これを。い。小。え。あ。今。の。言を。聞て。幸。些。情。あ。ん。汝。命。禍。成。貴。衆。狐。を。完。置。一。矢。明日。一。狐。一。矢。眼。小。速。公。ひ。弦。を。鳴。え。二。矢。眼。小。速。公。の。尾。を。射。ん。と。眼。小。速。公。射。て。れ。を。教。え。若。曹。う。自。愛。し。禍。を。避。よ。白。物。拜。謝。と。出。る。と。押。入。た。ら。お。迹。を。矢。を。既。小。曉。天。到。バ。和平。列。率。を。以。て。滋。賀。山。將。も。小。狐。と。く。完。置。ら。れ。て。

獲。と。る。偶。野。狐。馬。前。を。過。り。の。あ。れ。バ。和平。眼。を。定。む。と。い。つ。一。小。地。と。を。射。て。あ。せ。を。走。ま。り。終。日。あ。一。狐。だ。も。獲。む。と。い。城。を。ゆ。り。て。あ。を。折。高。負。勃。然。と。て。の。事。ま。わ。志。突。坂。本。山。最。廣。一。た。ど。物。あ。ん。や。これ。予。小。賊。と。ん。これ。え。り。和。平。の。射。と。を。志。る。夫。戦。は。膽。を。射。と。い。ま。く。山。登。て。狐。狸。を。得。と。易。し。の。易。と。も。は。射。と。を。志。ら。る。に。お。ま。り。予。が。禄。を。食。な。り。予。が。命。た。が。よ。の。罪。最。輕。と。い。と。た。ら。ま。あ。を。放。逐。と。し。和平。違。命。の。罪。以。得。と。い。の。事。を。明。小。折。と。あ。つ。終。は。江。州。を。立。去。け。し。也。

第四回

隔樓綾管運情
停船釣竿叙思

星霜已小十餘年を經く。永享二年同將軍義教の治世
 關東の管領四位羽林足利成氏の執權植杖右京大夫憲忠
 く管領を補佐して民を撫育し國家を治て東國を又も歸
 時ハ永享十二年春三月憲忠の室膳太夫人親姑峯權現に
 焼香け賽相州梅沢の驛を過る。年才五十六の女兒西の巷
 よりそりて來つ大轎のまふたら声成夜く泣さば夫人轎簾の
 間へ是を認てこらあ中へ人きりて女兒を呼來し免さうり賺
 去てその面を伺ふハ女見嘆て泣く。日くハ大和國の北へ
 頃日父もも平城宮の里小あそびハ小あそびも稍客は向引
 と山河の艱難を經ると十日をり。やも大破とやんハ
 臥ふ伴也一軒の豪家小いさう。前門はこらをきりせ置稍客

ちが裡面小入アアと主翁と高後とこらハ家の光景を思ふ
 ぼろろ商人あつど是妓様ありくハを畧賣るべとせり
 いさうあつ。遂に逃くあふ來りといふ夫人これとさうてぬり
 哀あひこの見田舎小生とあつ。幼雅とあつ。女竟あり
 汝の稍客をえりたれり女兒うをりてその人面黒く眼大
 て解あり。こらハ過刻に此驛小負とさうとれ。哉小松葉をり
 きの夜襟を縫おれぬ。探索人とあつ。あつ。を月探ありと
 小夫人ももく。驚嘆あひ。鳴宇稚子のあつ。賊を捕ふ足
 この見成長のち聰明とあり。遂に隨從の氏士をり
 て大破小いさう志免。驛長小徇て松葉をり。衣襟を刺たるの
 を携ふ。ちちち搜せり。彼稍客を捕來ぬ夫人とさう女

兎を携り。稍客を引りせ。鎌倉よりて縁故を憲忠よりむむ。
 憲忠兎の怜利を感ず。稍客或喋問志免あふ。積悪ならまら。
 覺て終ふ首を削らる。是より憲忠夫妻の女児を愛ひ。その名
 を玉琴とよびて日夜側ふ。一光陰矢のゆく。梭のどく玉琴
 のことを習得たり。加之憲忠夫妻のこころをありま。実小給奉
 せ。そのとよりく夫妻まもく。いつくまの光陰矢のゆく。梭のどく玉琴
 既小破仏の春をひりふ。その賢のこころを顔色又絶。藤あて。立
 て晚風小近つけ。蛺蝶を迷し。坐て秋水小臨。芙蓉を欺く
 のとくあり。時小憲忠の左臣海部大膳。年老く子。憲忠
 これをあり。玉琴を大膳小賜り。渠が女児。養ふ。養ふ。
 小よりて玉琴。給奉を辞して。入後。養女となり。

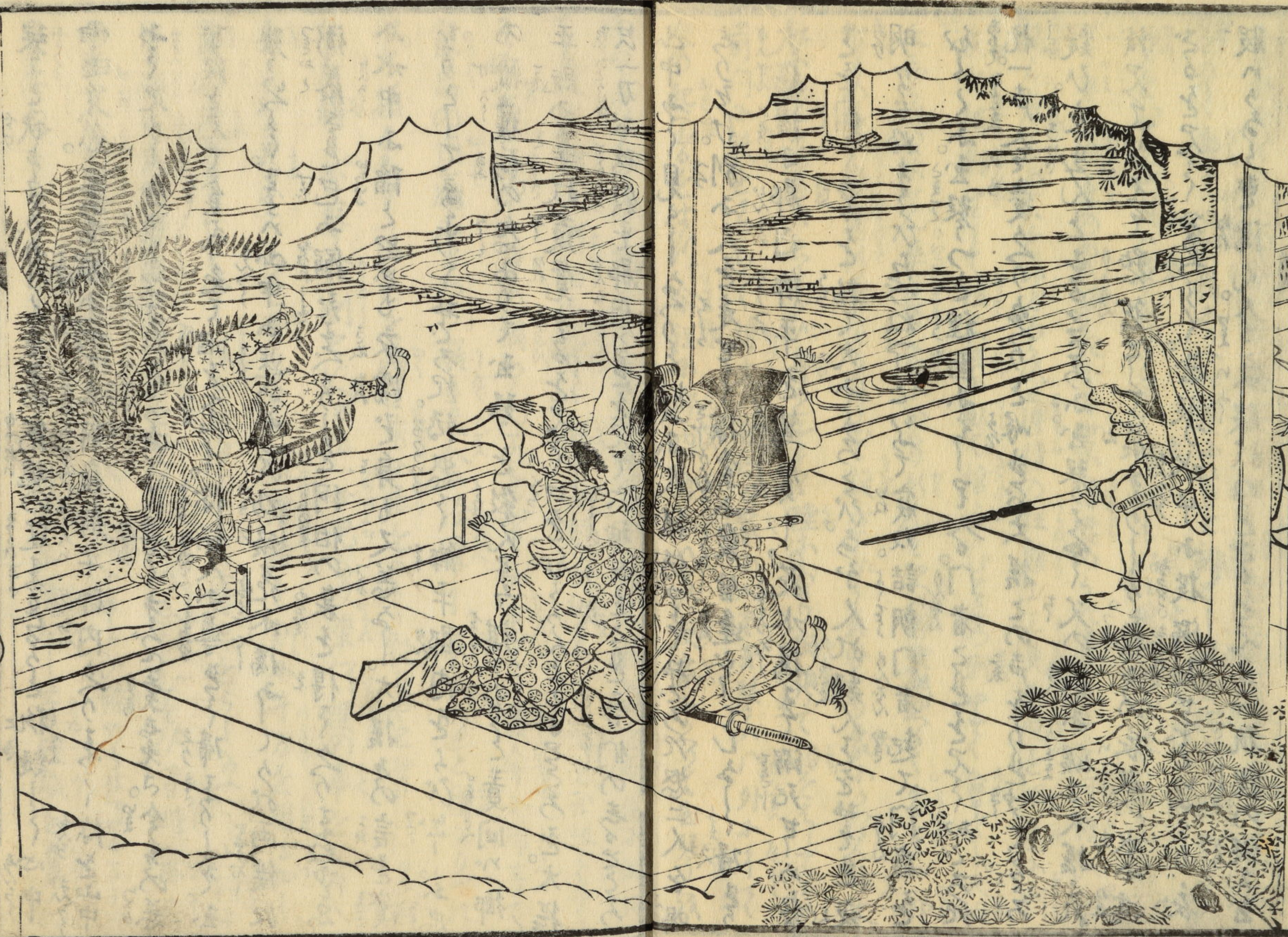
勞をよきとて。間あると。此を書を讀み。又ある時。玉指
 をあめめ。琴を弾ど。その曲。蕭々として。雨の零ふ。ひらく。近
 くに。調をば。流泉の碧嶂。より来り。遠き。を聴く。玄鶴
 の青。冥より下る。小似。より。その一個の女子あり。その名を。熊谷
 信文と。よ。よ。憲忠の近官。して。その宅地。大膳が家。小。
 両家の屋。樓相對ひ。つ。小垣。一重を隔く。樹木。その。向。小。
 倭文。の。妻を娶ら。嘗。玉琴。が。妹。喜。西。施の。媚。あり。て。衣。通。小
 町。が。風。あり。て。を。や。く。を。懸。想。と。より。玉。琴。樓。に。
 琴。を。撫。持。バ。倭。文。も。又。樓。小。登。り。笛。を。吹。已。小。の。声。を。夕。の
 曲。を。よ。と。よ。茂。樹。小。遮。也。遙。點。あり。て。面。を。ま。れ。小。曲。を。漸。九
 月。小。より。て。一。夕。魁。抄。を。過。木。葉。黃。落。く。枝。條。扶。疎。小。あり。初

琴が帯をとりて河に減くと突墮し。二人滞を志して逃去
 けり玉琴吐嗟水中小水見と坐時釣艇の棹一来るあり。船
 橋腹をひき玉琴橋より墮り急小水中小溺せりて舟裡小破
 せしる漁者ゆとりて船をさめこれを見る小一女子船底に
 倒死せり。あまをゆんとさる小名をききてこれを救んとする
 小茶前なり。あまをさる水を掬て口中小注入今小齒を切
 水ひきてあまなくさつら水を合はよりけりついで水は
 免く喉を通りて蘇り。漁者問く云郎女何の過ありて
 水中小投んと志あまや玉琴いつくさるはとえて入水さるの
 小あま家僕の小娘とて水中小落べり一を幸しこの
 船小入りぬ是再生れ恩なり。漁者又いつくさる君が家に

かたりゆらん如何玉琴大ふらりとびり夫然かこの急の幸あり
 とり時小雲月を吐金波河水小映せ。二人その光おつれくはめて
 小の面を又見小漁者の熊谷倭文なりと見相共小且驚且よろこび
 恥くあまなく言を。稍ありて倭文云れ漁獲をこのて時この川
 小はふ今實又聞かま。ゆり扁舟小棹しとるは佳人小遇ぬり
 是れ桃源の水源小あまの。さる織女あまのむすめの天降るあまの面を
 みて一話を通せと云ふ。意君小あると云得ありあまの山一夕の縁
 小あま願くは枕席をさめり。借差の契をひきをん玉琴これを夢て
 満面紅を注しとく。拘るる死く巻とあまを脱りてついで女子
 父母の身を得て身を入小まらべりとて云ふ今危難
 郎小ありて免と露命郎小ありて恙なく恩を得く報さると云れ

會話ふひう。この夜の奇遇妻とつらう諦むとあるを只百年此命
 をりく郎が一夕の情ふ人遂に咎を禱と一揮を枕と一既楚臺の
 夢をよむ月ハ房をこらして婦娥も妬風ハ舩を走て石を恨む
 一身を浅妻のあき所死をせし浮君のうら名ハキそと可憎れ病
 鵲ハ夜羊小人を叩てろろ薄情の狂難ハ之更ハ曉を唱遂ハ則
 衣を被對望して泣又共臥て槍うらむと別中と會が。天明
 人志ふいふせん率君が家小ありゆんといハ玉琴然しうく家さハ邪
 智のまり郎送ゆめらうぞ疑ふ。うらむはひとり家小ハ人倭文
 はふりとも言ふまうび。舟をこぞ陸ハあり相携て路をとりてその
 前門ハ被をこらちく倭文ハ自己が家小入玉琴ハ門外ありく
 人の起るをまハ余程ハ郡内御平ハ夜家小あり玉琴ハ
 山中あり見うらうといふ。大後偽アてゆら死怒二人を喝
 ありつけ。別小人を走せく探索ハ衆皆逢てしうく帰る。

大後借ハ郡内御平を篤賞。花水橋を溺死せぬを
 正を聞て堂を拍て大ふらうとび。あや人ハ疑ん正を抄て夜
 明わらぬ物まうびたづねアといて寂ぬ詰朝門者起て門扉を
 びくくふ玉琴つと裡面ありて合。門者こををえくおどろ死
 忙一声令愛うりありと叫ぶ。大後この声をりて少てころ
 疑ハ立出んとまるところふ玉琴を命ハ父の前ハ踊る。大後これ
 消えて果して然然とて居まらり。が熟るの衣服の水ハ濡
 ざるをえくおどろく。玉琴水中ハ投溺死せむといふとも衣
 服ハうらむ濡ん今衣服れぬとざるをえくハ狐狸の假ハ玉



とてと流言せし免けと成氏を傳聞て大おどろけ多し。近
曾官領の威權抑え予弱官あるをりつて關東の成敗り
らう憲忠のより出り憲忠企叛て國家殆危うん。とや
こをを謀まへと氏士を帷幕の裡に匿せ死政事の密談あり
と俄に憲忠を召し憲忠を召しを告ぐと士率僅に六七人を領て
營に登成氏不見きと正廳の歩櫓を過りて
ゆり帷幕の裡より氏士と出君命なりと組著とるを
憲忠とるえきりと頸を相之十歩許投退る氏士二人又左
右より狙んとて憲忠これありおれれど右に柱左に支きとらふ
膝下お組布よりあられども大紋の直垂身お捕箭進退自
由らうけりけし。一人よりるるを鎗をぬき憲忠の膽を刺憲

忠の鎗を握り抜去免と。言下お一首れ和分を叫ぶ。
これ身も替りてせむあげくらう今お孫もとの業
時小氏士お刀をぬき只寸々お砍るお憲忠更お身を勤る。
二人を膝下お組布より端然とて死す。時小享徳元年十
二月朔日あり。憲忠の従率お主君害せられぬと聞て率命
を惜み死。とる官中お討死せり。是日憲忠の館に官中
事ありとを告ぐ。夫人後お苑におり早梅を賞し。あは玉
琴来り。朔旦を賀し。浩如お後門の辺より一個の士率全
身お血を流し走来り。とて。憲忠官中お害せられぬ。従
率お共お戦死す。とや。の禍を避めをばい當お危うべし。
臣この事を告ぐとや。とる逃れとるお事あり。身只主と

こもみ死ざるを恨とひ。言はれてさうらう。劍不伏て死せ。夫人これを見て
て大おどろけ。是其いふと。號哭。愁傷。殆死ん。と。あ。玉琴の
免ていつく。相公落命の。と。孰く。あ。色を。歎。えん。歎。と。いつく。久。系
これ。相公の。賢。身。式。部。少。輔。房。頭。今。京。都。小。侍。ま。せ。ん。志。づ。く
難を。避。く。の。ち。これ。と。高。後。君。公。纒。死。の。汚。名。を。雪。め。り。と。
萬。方。勤。つ。て。ま。せ。り。後。堂。小。伴。を。り。く。俄。頃。小。四。方。置。塵。々
と。耳。辺。に。威。声。發。軍。士。前。後。不。辨。出。し。一。個。の。左。將。身。に
江。指。甲。を。被。白。髪。み。み。れ。く。芒。花。れ。ど。く。馬。を。庭。前。の。樹。下
小。騎。を。え。鞭。と。揚。て。夫。人。を。さ。し。招。れ。管。領。の。命。を。ら。け。今
ふ。憲。忠。れ。家。督。を。兼。吾。不。從。り。れ。活。れ。不。叛。り。め。死。ん。と
喚。了。士。卒。に。下。知。し。く。夫。人。を。捕。ん。と。ひ。玉。琴。や。ど。り。死。て。これ。を
も。と。假。父。海。部。大。掾。に。り。士。卒。を。敵。と。あり。て。左。衣。振。兵。あり。
率。已。不。意。ら。り。け。ど。バ。何。も。く。長。押。の。眉。尖。刀。を。合。遮。さ。め。く
戦。ん。と。ひ。大。掾。目。を。瞋。し。父。不。仇。も。賊。女。兒。何。の。面。目。あり。と。挑。留
こ。も。や。と。罵。れ。玉。琴。微。笑。し。く。父。不。仇。も。是。と。や。せん。君。を。殺
せ。る。を。う。と。や。せん。と。あ。ざ。し。れ。た。致。大。掾。を。と。く。怒。を。渡。し。刀。以
揮。て。こ。も。と。戦。ひ。た。ら。ち。ち。玉。琴。が。眉。尖。刀。を。う。ら。ち。落。て。脱。不
敵。ん。と。も。時。小。壯。士。一。人。鎗。を。採。り。し。り。了。来。了。熊。谷。倭。文。と
み。あり。と。呼。び。つ。ま。は。し。鎗。を。合。伸。て。大。掾。を。刺。殺。し。る。何。ゆ。り。て
いつく。これ。前。小。も。と。て。敵。を。と。り。ん。玉。琴。の。夫。人。を。身。護。し。
こ。も。後。不。志。さ。し。て。玉。琴。を。と。り。と。右。小。衛。左。小。當。遂。不。一。條。れ。血。路。を
む。り。後。門。を。り。し。り。て。出。る。不。敵。兵。あり。と。柱。と。あ。り。と。ひ。夫。人

こもみ死ざるを恨とひ。言はれてさうらう。劍不伏て死せ。夫人これを見て
て大おどろけ。是其いふと。號哭。愁傷。殆死ん。と。あ。玉琴の
免ていつく。相公落命の。と。孰く。あ。色を。歎。えん。歎。と。いつく。久。系
これ。相公の。賢。身。式。部。少。輔。房。頭。今。京。都。小。侍。ま。せ。ん。志。づ。く
難を。避。く。の。ち。これ。と。高。後。君。公。纒。死。の。汚。名。を。雪。め。り。と。
萬。方。勤。つ。て。ま。せ。り。後。堂。小。伴。を。り。く。俄。頃。小。四。方。置。塵。々
と。耳。辺。に。威。声。發。軍。士。前。後。不。辨。出。し。一。個。の。左。將。身。に
江。指。甲。を。被。白。髪。み。み。れ。く。芒。花。れ。ど。く。馬。を。庭。前。の。樹。下
小。騎。を。え。鞭。と。揚。て。夫。人。を。さ。し。招。れ。管。領。の。命。を。ら。け。今
ふ。憲。忠。れ。家。督。を。兼。吾。不。從。り。れ。活。れ。不。叛。り。め。死。ん。と
喚。了。士。卒。に。下。知。し。く。夫。人。を。捕。ん。と。ひ。玉。琴。や。ど。り。死。て。これ。を
も。と。假。父。海。部。大。掾。に。り。士。卒。を。敵。と。あり。て。左。衣。振。兵。あり。
率。已。不。意。ら。り。け。ど。バ。何。も。く。長。押。の。眉。尖。刀。を。合。遮。さ。め。く
戦。ん。と。ひ。大。掾。目。を。瞋。し。父。不。仇。も。賊。女。兒。何。の。面。目。あり。と。挑。留
こ。も。や。と。罵。れ。玉。琴。微。笑。し。く。父。不。仇。も。是。と。や。せん。君。を。殺
せ。る。を。う。と。や。せん。と。あ。ざ。し。れ。た。致。大。掾。を。と。く。怒。を。渡。し。刀。以
揮。て。こ。も。と。戦。ひ。た。ら。ち。ち。玉。琴。が。眉。尖。刀。を。う。ら。ち。落。て。脱。不
敵。ん。と。も。時。小。壯。士。一。人。鎗。を。採。り。し。り。了。来。了。熊。谷。倭。文。と
み。あり。と。呼。び。つ。ま。は。し。鎗。を。合。伸。て。大。掾。を。刺。殺。し。る。何。ゆ。り。て
いつく。これ。前。小。も。と。て。敵。を。と。り。ん。玉。琴。の。夫。人。を。身。護。し。
こ。も。後。不。志。さ。し。て。玉。琴。を。と。り。と。右。小。衛。左。小。當。遂。不。一。條。れ。血。路。を
む。り。後。門。を。り。し。り。て。出。る。不。敵。兵。あり。と。柱。と。あ。り。と。ひ。夫。人

月水奇録卷之二畢

とらうらうらうとく布^こ穴^{あな}を^を透^ぬ是^こ西^{にし}を^を望^{のぞ}て^り了^らあ^あ鳴^な卒^{そつ}護^ご傳^{でん}比^ひ
人^{ひと}を^を傷^やふ^や。その毒^{どく}蛇^よ蝎^かう^うを^をれ^ぶ。海^{うみ}部^ぶ君^{きみ}を^を殺^{ころ}す^は逆^{さか}
徒^とと^とども^{ども}成^な氏^し護^ごを^を信^まむ^ると^とわ^わく^く其^{その}憲^{けん}忠^{ちゆう}を^を如^い何^{なん}持^もつ^つあり^{あり}
護^ごと^とと^と。

堂^{たう}堂^{たう}八^{はち}尺^{じゆ}軀^く
舌^{かた}上^{じやう}右^{みぎ}龍^{りゆう}泉^{せん}

莫^ま聽^と三^{さん}寸^{すん}舌^{かた}
殺^{ころ}人^{ひと}不^な見^み血^{ちゆう}

月水奇録卷之二畢

